

## 学校の在り方地区検委員会（第3回）における主な意見一覧

- 1 単位制や少人数学級編制、学科、学校配置の方向性・・・・・・・・・・ 1
  
- 2 全日制課程の学校規模・配置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
  
- 3 定時制課程・通信制課程の学校配置・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
  
- 4 その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

# 1 単位制や少人数学級編制、学科、学校配置の方向性

地区	主な意見
東青	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 単位制は不登校のこどもたちをはじめ、多様性のあるこどもたちにとって柔軟な学びを提供してくれるという意味合いが非常に大きいので、単位制の拡充の方向性は非常によい。</li> <li>② 単位制や少人数学級編制を拡充する場合は、教員数が必要になるので、教員が未配置にならないようにする必要がある。</li> <li>③ 単位を修得できなかった生徒への対応を考える必要がある。</li> <li>④ 単位制については、こどもたちにも分かるように説明する必要がある。</li> <li>⑤ 職業教育を主とする専門学科（以下「職業学科」という。）においては、実習が多く、少人数学級編制を実施した方がよいと思うが、生徒数の減少に合わせて教員数が減少することがないよう、県として方策を講じてほしい。</li> <li>⑥ 少人数学級編制が望ましい。</li> <li>⑦ 他県にはない、東青地区ならではの特色ある学科を設置してほしい。</li> <li>⑧ 時代のニーズに合った学科や将来の職業に繋がる学科を設置してもらいたい。</li> <li>⑨ こどもたちに考えさせて作る学科があってもよい。</li> </ul>
西北	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 少人数学級編制については、普通教育を主とする学科（以下「普通科」という。）等でも効果が出ていることから、普通科、総合学科にも拡充すべき。</li> <li>② 少人数学級編制については、本県の現状を見れば必要不可欠なものである。</li> <li>③ 普通科の特色化・魅力化は、イノベーションを起こすことができる人財を育成することが目標であり、実社会につながる授業や高度実験環境を核とする理数探究が必要となるが、実施に当たっては、ある程度の規模が必要である。このことから、少人数学級編制の実施校はある程度限定的になる。</li> <li>④ 五所川原高校で少人数学級編制を実施し、学級数を維持するなどを考える必要がある。</li> <li>⑤ 普通科へ設置する新しい学科（以下「新普通科」という。）の方向性はよい。</li> <li>⑥ 新普通科の設置については賛同するが、設置に当たっては、徐々に全県に広めていく方が学科の魅力を発信しやすい。</li> <li>⑦ 新普通科の学びについては、総合学科でも既に実現できている。</li> </ul>
中南	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 単位制導入に当たっては、学年制と同様の仕組みとしないようにする必要がある。</li> <li>② 職業学科では多様な生徒が増えており、少人数学級編制の実施によりきめ細かな指導が可能になるため、商業科と家庭科での実施については賛成である。</li> <li>③ 職業学科については、多様な生徒が入学している現代において、実習の安全性を考慮し、1学級当たりの人数を更に引き下げることが検討する必要がある。</li> <li>④ 新普通科の設置に当たっては、各校ごとに特色を出した上で設置をした方がよい。また、生徒が自ら学びたいことを学べるような教育環境を整備する必要がある。</li> <li>⑤ 高校では既に探究的な学びに取り組んでいるが、中学生の志望につながっていない。探究科については、高等教育への接続も見据えて方向性を打ち出すべき。</li> <li>⑥ 学びの内容を提示した上で中学生に高校を選択してもらうことや、学びの内容を中学生のニーズに合わせる必要がある。</li> <li>⑦ 学校配置は今のままでよいと思う。</li> </ul>

上北	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 単位制について賛成である。</li> <li>② 単位制も少人数学級編制もこの先を考えれば必要である。</li> <li>③ 単位制の導入や少人数学級編制の実施については賛成である。ただし、全ての職業学科で少人数学級編制を実施してほしい。</li> <li>④ 職業学科では少人数学級編制を実施する必要がある。</li> <li>⑤ 少人数学級編制について小・中学校においても県の施策として33人学級を実施していることを踏まえ、普通科でも33人以下の編制を目指してほしい。</li> <li>⑥ 少人数学級編制については、看護科も含め全ての職業学科での実施を検討するべき。</li> <li>⑦ 高校における少人数学級編制は進めてほしい。</li> <li>⑧ 学級減より少人数学級編制を実施した方が充実した教育環境となると考える。</li> <li>⑨ 新普通科を設置する場合には、卒業後の進路を明確化する必要がある。</li> <li>⑩ 新普通科については、地域住民や中学生にとって魅力的に映らなければ関心を持ってもらえない可能性がある。</li> <li>⑪ 新普通科を設置するのではなく、専門性のある外部講師等を活用しながら、普通科や総合学科に多様な科目を開設する方が現実的である。</li> <li>⑫ 新普通科を設置することには賛同できるが、中学生から選ばれるためには、分かりやすい学科名とするとともに、教育内容や卒業後の進路先を明確にした上で、中学生やその保護者に周知するべき。</li> <li>⑬ 新普通科は中学生やその保護者に分かりにくいいため、これらは総合学科で対応した方がよい。</li> <li>⑭ 新普通科の設置については賛成であるが、現場の校長や教員と十分な相談をしてほしい。</li> <li>⑮ 新普通科については名称を分かりやすいものにしてほしい。また、新しいことを始めるには検討期間と予算が必要である。</li> <li>⑯ 野辺地高校の普通科を総合学科に改編し、既に総合学科のある七戸高校の連携協力校として進路選択に幅広く対応するべき。</li> <li>⑰ 学校配置は、第2回会議で示した3案のどれかに絞り込み、最終方針として決定するべき。</li> </ul>
下北	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 少人数学級編制は効果があることから、普通科への拡充も検討してほしい。</li> <li>② 単位制の導入に当たっては、教員と教室を確保するべき。</li> <li>③ 前期実施計画の方向性は納得できるが、本当に実現できるか考えなければならない。定数を満たすような教員配置をお願いしたい。全ての教育資源を全ての県立高校の生徒に開放してもらえれば、教員が足りなくても何とかなるかもしれない。  <p>全ての県立高校の生徒が自ら望む科目を履修し単位修得ができるよう、遠隔教育の推進や単位の認定制度の改善を行う必要がある。また、県内の専門学科がある高校の施設設備を他の高校の生徒が利用できるようにしてほしい。これらの取組を実施するモデル校を下北地区統合校としてほしい。</p> </li> <li>④ 特色ある教育活動推進に対して異議があるわけではないが、突然の新普通科の明示及び配置に対して、子どもや保護者、学校関係者など、地域にはとまどいの声もあるのではないかと推察する。また、方向性の明示に当たり、当委員会から挙げられた地域の声をどの部分に、どのように反映しているのかが分からない。</li> <li>⑤ 「6地区ごとに、中学生のニーズを考慮しながら、様々な役割を担う学校を配置」とあるが、オブザーバーの校長先生方からも課題として多く挙げられた「学力層の差」について、解決策が示されたものではない。</li> <li>⑥ 下北地区においては、学力が高い子には将来のキャリアを見据えて、その学力をどんどん伸ばして、より高度な学びを提供できるような「特進コース」の設置が必要だと訴えて続けるとともに、統合校については、県内初の工業科と総合学科の併置校として、専門知識の習得に向けての多様な学習環境の整備が必要である。何よりも、子どもたちが学びたいことを学べ</li> </ul>

	る環境と、自分の学力にあった適切な学びが受けられることを6地区ごとに保障すべきである。
三八	<p>① 単位制や少人数学級編制、普通科の改編について賛同する。</p> <p>② 単位制及び少人数学級編制については実施に向けて早急に準備を進め、県全体で個に応じたきめ細かな指導ができるようにしてほしい。</p> <p>③ 単位制の導入や少人数学級編制の実施に当たっては、教員確保が課題である。</p> <p>④ 新普通科の設置については、中学生の選択肢が増えるため、賛同する。</p> <p>⑤ 新普通科の設置に向け、卒業後の進路の想定や教育内容等の周知、高校教員の専門性の向上等、様々な取組を進める必要がある。</p> <p>また、新普通科の設置に向けては、他県の事例を踏まえるのではなく、本県独自の取組を行う学科としていかなければ、生徒数が減少し、変化の激しい時代に対応できないと考える。</p> <p>さらに、大学や県内の企業等とも連携し、地域を支える人財を育成し、県内定着させるために、高校の役割は重要であると考えます。</p> <p>⑥ 未来デザイン科又は探究科を三戸高校に設置し、学校の特色を打ち出せばよい。また、データサイエンス科は、八戸北高校に設置し、理系色を特色とすればよいと考える。</p> <p>⑦ 中学校卒業予定者数が減少していく中において、学校規模の適正化は加速度的に進めていく必要がある。</p> <p>⑧ 同じ高校に入学する生徒間の学力差が広がっている。学級減を検討するに当たっては、学力差の是正という観点もあるのではないかと考える。</p>

## 2 全日制課程の学校規模・配置

地区	主な意見
東青	<p>① 新普通科の教育内容等が分かれば、中学校としては安心して生徒を高校に送り出せる。また、高校での活動をアピールして大学に進学する形もあると思われるが、そのような観点でも情報があるとよい。</p> <p>② 多様な学科がある中で、新普通科はどのような進路の選択肢があるのか、将来の進路選択にどのように有利になるのかというイメージができれば、中学校においても進路指導が充実する。</p> <p>③ 社会が求めているということで、新普通科の設置はとても意味がある。中学生は、自分の将来像が見えてくれば、その学校・学科で一生懸命に取り組むため、文系でも大丈夫であるなど、具体的に学科について分かるような学校紹介をお願いしたい。</p> <p>④ 新普通科を設置する場合、小規模校だと教員の負担が大きいため、6学級程度の規模が必要とのことなら、教室の確保や教員の配置などをしっかりと対応する必要がある。</p> <p>⑤ 選択肢を広げるという点で新普通科の設置はよい。ただ、充実した教育環境として6学級規模でなければならないとのことだが、教員数が足りないからそのように言っているのではないかと感じる。教員が少ないから統合して大規模校を増やすという考え方でなく、県として予算をかけて教員を増やす取組を考えるべき。</p> <p>⑥ 新普通科は、地域課題の解決や、これからの子どもたちを育てていくという意味では非常によいが、子どもたちが夢を持って進学しようと思えるよう、中学校と高校が連携してしっかりと周知する必要がある。また、多くの普通高校がある東青地区においては、3つの学科を全て設置することも考えられる。</p> <p>⑦ 余裕のある教員配置ができる規模の高校を増やした上で、新普通科の設置を考えた方がよい。</p> <p>⑧ データサイエンス科と聞いてもすぐにイメージが湧かないため、どう具現化するかが重要である。また、学校側の体制整備や地域の方々の協力も必要となる。</p> <p>⑨ データサイエンス科で何を学ぶのかが見えないという意見もあるが、子どもたちは新しい学科に興味を持って調べると思うので、子どもたちに分かりやすいように打ち出した方がよい。また、高校では、より高度で専門的な学びが重要であり、指導する教員や外部人材などをしっかりと確保できるとよい。</p> <p>⑩ データサイエンス科で学ぶ内容について、学校間で差が生じないように、ある程度の指針が必要かもしれない。</p> <p>⑪ 高校からデータサイエンス科の具体的な学習内容が発信されれば、中学生は新普通科の学びをイメージできる。</p> <p>⑫ 青森中央高校、青森南高校、青森北高校を中心に探究科を考えるのがよいという意見や、地域的な観点も踏まえ、青森西高校と青森高校において普通教育を充実させるのがよいという意見が挙げられた。そう考えると、現在普通科のみであり、かつて理数科があった青森東高校へのデータサイエンス科の設置が考えられる。</p> <p>⑬ 青森東高校にデータサイエンス科を設置することで新たな魅力が打ち出せる。また、探究科については、青森中央高校、青森南高校、青森北高校の3校を合わせて探究学習をけん引する学校として新設するのがよい。</p> <p>⑭ 大学でもデータサイエンスは人気があり、指導する人材が不足している。民間企業における人材不足も同様であり、そのような人材を当てにしすぎず、社会教育と連携するなど新たなシステムの構築が必要である。</p> <p>⑮ 探究学習に取り組んだから大学に進学できないということはなく、むしろ探究学習に取り組んだ方が大学進学に生かすことができる。</p> <p>⑯ 産業に関わる人財育成やキャリア教育の観点から、青森商業高校と青森工業高校の学級数を</p>

	<p>維持してもらいたい。</p> <p>⑰ 東青地区の高校が全て青森市内に所在する現況において、上磯地区のこどもたちにとっては高校への通学手段が課題になるため、統廃合する場合にはその点も考慮してもらいたい。</p> <p>⑱ 3校の統合についての話があったが、事務局からの提案なのであれば、地域に根差して学校が存在している中で、当該地域にとって大きな問題であるため、本委員会での更なる協議が必要である。</p> <p>⑲ 青森市東部の青森高校と青森東高校、西部の青森北高校と青森西高校、中央部の青森南高校と青森中央高校をそれぞれ統合することが考えられる。</p>
<p>西北</p>	<p>① 鱒ヶ沢高校への未来デザイン科の設置に賛同する。未来デザイン科において、水産や漁業について探究する学習も考えられる。</p> <p>② 未来デザイン科の設置に当たり、現在の鱒ヶ沢高校の取組をブラッシュアップしていくことで、更に魅力ある学校になると考える。そのためにも、自治体や地域、県等が連携を深めていく必要がある。</p> <p>③ 未来デザイン科の設置により、地域のために働けるような人財を育成できればよい。</p> <p>④ 五所川原高校が1学級減となることで、配置できる教員数が減となり、難関大学受験に対応できなくなるのであれば、五所川原高校の特徴がなくなってしまうため、5学級規模を維持すべき。</p> <p>⑤ 五所川原高校を1学級減することで、教員数が減ってしまい、そのことにより同校の魅力が薄れてしまう。教員数が減り専門性が薄くなると、きめ細かな指導ができなくなることが課題である。この課題が払拭できれば、五所川原高校の1学級減は選択肢となるだろう。</p> <p>⑥ 県が単位制の拡充を検討している状況に鑑みると、五所川原高校を単位制とすることで科目選択の幅が広がり、多様な進路志望に応じたカリキュラム編成が可能となるほか、教員数を確保しやすくなる利点もある。このことから五所川原高校の普通科及び五所川原工科高校の普通科をそれぞれ1学級減とした場合は教員数の減の影響を抑えられ、五所川原工科高校普通科2学級減の場合でも幅広い学力層に対応した教育課程を構築することができると思う。</p> <p>⑦ 五所川原高校普通科を学級減することにより難関大学への進学を目標としている中学生が青森高校や弘前高校などへ進学することとなり、他地区への流出を加速させることにつながると考える。</p> <p>このため、五所川原工科高校普通科を2学級減とすることが、地区にとっては望ましいと考える。</p> <p>⑧ 五所川原市内の高校が2学級減になることはやむを得ない。五所川原工科高校普通科及び五所川原高校普通科をそれぞれ1学級減とすることが考えられる。</p> <p>⑨ 五所川原工科高校に普通科を1学級のみ設置する場合、教育課程の編成が難しいのであれば、同校普通科をデータサイエンス科に改編することも考えられる。</p> <p>⑩ 五所川原工科高校の普通科は、鶴田町や板柳町の中学生の進学先となっている。五所川原工科高校の普通科を2学級減とした場合、中南地区などへの流出に拍車がかかる懸念がある。</p> <p>⑪ 五所川原工科高校に工業人を育成するという役割を持たせるのであれば、普通科を2学級減とし、工業科だけの高校とすることも考えられる。</p> <p>⑫ 難関大学を目指す五所川原高校だけでは、難関大学を目指すことを目標としていない中学生にとっての選択肢はなく、他地区へ流出する可能性があるため、中学生の普通科への進路の選択肢を確保する必要がある。</p> <p>⑬ 五所川原高校は、勉強が苦手で普通科に行きたいという中学生にとってはハードルが高いことから、五所川原工科高校に進学したいと考える中学生もいるだろう。</p> <p>⑭ 学校規模の縮小に伴い、配置する教員が減ることで、進学に重点を置く高校が大学受験科目に対応できない可能性があることは、大きな問題である。</p>

中南	<p>① データサイエンス科は弘前中央高校又は弘前南高校への設置が望ましいと考えるが、教職員の理解や十分な検討が必要である。</p> <p>② これまでの意見を踏まえ、シミュレーションを行った結果、弘前実業高校への農業科設置について、ハード・ソフトの両面で可能であるとのことであり、農業科を設置する場合の学級減については、中学生のニーズを踏まえると、黒石高校の1学級減と柏木農業高校の1学級減が考えられる。</p> <p>③ 近年の志願倍率を考えると、黒石高校普通科の1学級減が適当であると思う。</p> <p>④ 弘前実業高校に農業科を設置し、柏木農業高校を1学級減とする場合、現在の学科構成にこだわらず、将来を見据え最先端の知識と技術を身に付けられる学習内容や地区の実情に合った学習内容とするべき。</p> <p>⑤ 弘前実業高校に農業科を設置することについて、生徒の通学の観点からはよいと考える。</p> <p>⑥ 国において公立高等専門学校の新設を支援する動きがあることを踏まえ、公立の農業高等専門学校の新設を視野に入れた学校配置を検討してほしい。</p> <p>柏木農業高校の学びの高度化を図る観点から、例えば、同校を農業高等専門学校とし、普通高校と連携した教育活動を展開することが考えられる。</p> <p>⑦ 他県において、農業高等専門学校の事例はなく、設置の必要性について十分に検討した上で慎重に判断する必要がある。</p>
上北	<p>① 新普通科の設置に伴い、教員の負担が増えないよう、適切に教員を配置すること。</p> <p>② 新普通科は、カリキュラムが従来の普通科とそれほど変わらないことから、名称を変更する必要はない。</p> <p>③ 未来デザイン科は六ヶ所高校への設置も考えられる。ただし、同学科の内容・特色が分かりづらいため、中学生やその保護者にも分かりやすくするとともに、設置に当たっては高校側ときちんと検討してほしい。</p> <p>④ 未来デザイン科の設置については、これまでの普通科の学習内容が土台となるのであれば、設置することは賛成であるが、設置に当たっては、学校と密に連携をしながら決定してほしい。</p> <p>⑤ 未来デザイン科がどのような学習をするのかイメージしにくいことから、中学校への説明は丁寧を実施すべき。</p> <p>⑥ 中学生のニーズを踏まえると、職業学科の再編も必要である。</p> <p>⑦ 職業学科の精選と普通科の学級減が現実的であり、具体的には、三本木高校、三本木農業恵拓高校普通科、三沢高校、百石高校普通科、七戸高校の学級減で対応するのがよい。七戸高校の学級減については、系列を縮小しないのであれば地域の理解は得られると考える。</p> <p>⑧ 人口規模を考慮すると、十和田市に普通科が8学級もあるのは多いことから、十和田市内の学校から学級減を実施すべき。</p> <p>⑨ 百石高校の普通科は大きく定員割れしているが、入学者数は1学級を超えているため、学級数を維持してほしい。ただし、上北地区でどうしてもあと1学級減する必要があると判断した場合には、学級減も仕方ないかもしれない。</p> <p>⑩ 七戸高校の総合学科の学級数は維持してほしい。</p> <p>⑪ 全ての学科について、充実した教育環境を整備するため、定員充足率に基づき学級減を判断すべき。</p> <p>⑫ 中学生が高校を選択するに当たり、卒業後の進路先や通学の利便性等、様々な要素があることから、総合的に勘案して学級減等を実施する必要がある。</p> <p>⑬ 教育内容が画一的・均質的な状態が続くのであれば、普通科から学級減する必要がある。</p> <p>⑭ 学級減については、これまでの意見の中から選ばざるを得ないのではないかと。</p> <p>⑮ 現在の学校は維持した上で、定員の充足状況に応じて学級減を考える必要がある。なお、学</p>

	<p>級減によって、地元の中学生在が入学できない状況とならないように配慮する必要がある。</p> <p>⑯ 学級減のみで対応した場合、各校の小規模化が加速するのであれば、前期・後期の5年間で分けるのではなく、今のうちから統廃合についても考えていく必要がある。</p>
下北	<p>① 未来デザイン科は、産業界や行政との関わりが強く求められる学科だと思う。下北地区の取組を特徴的なものにできればと思っているため、話し合いをしながら地域が関わられるようにしていきたい。</p> <p>② 未来デザイン科の設置は大間高校が妥当であると考えられる。</p> <p>③ 高校の活性化を図るにも教員数が必要である。県教委に対し地域校が所在する町村で要望活動を続けてきたが、1つも叶わないのであれば何も意味がないと思う。</p> <p>④ 大間高校は、北通り地区を中心とした子どもたちにとって貴重な意味を持っている学校である。1学級になると教員数やカリキュラムを維持することが難しく学校の魅力が低下してしまうため、2学級を維持してほしい。</p> <p>⑤ 大間高校の2学級を維持できないことは理解できるが、1学級になっても少人数学級編制を実施した上で教員数も確保し、多様な教育の提供をお願いしたい。</p> <p>⑥ 保護者の立場とすれば、大間高校を2学級にしてほしい。少人数学級編制で2学級とすることも検討してほしい。</p> <p>⑦ 地域社会に関する学びを行いながら大学進学にも対応する必要があるため、大間高校が1学級となった場合でも教員配置への配慮があればありがたい。</p> <p>⑧ 地域協議会の中では地域共育校の学級増に関する協議は想定していないという回答だったが、基本方針と大きく異なるのではないかと確認の上、回答の修正をお願いしたい。</p> <p>⑨ 地域共育校の募集学級数の検討について地域の意向を尊重しないと解される発言があったことから、これを明確に修正し誤解を排除する必要がある。</p> <p>⑩ 教育活動を充実させるために、学級数が減っても教員増配置が確実に実現されるのであれば、田名部高校1学級減も理解できる。しかし、教員増配置が満たされないのであれば、「よい」とは軽々に答えられない。</p> <p>⑪ 学校配置の基本方針に「高校教育を受ける機会の確保」と「充実した教育環境の整備」の2つの観点のバランスとあるが、バランスは地域によって違うと思う。</p> <p>⑫ 学校配置の基本方針として、「学級減で対応」と記載しているが、「学級減もしくは学科再編で対応」でなければならないと思う。学科の改編等も含めて考えていかなければ、この10年間の大きな生徒数の減少に対応できる学校にならない。</p> <p>⑬ 学級数の維持に固執するものではないが、各学校で何を学べるのかが分からない以上、判断ができない。</p>
三八	<p>① 新普通科については、名称が中学生やその保護者にとって分かりにくいものとなっているため、検討する必要がある。また、設置に当たっては、指導する教員の資質向上を図る必要がある。さらに、新普通科の設置に向けた周知が必要であるが、卒業後の想定される進路まで示す必要がある。</p> <p>② データサイエンス科については、普通科が改編されるため、普通科と専門学科を併置している八戸西高校と八戸東高校を除き、八戸北高校に設置するのがよいと考える。</p> <p>③ 未来デザイン科については、三戸高校への設置を、データサイエンス科については、八戸北高校への設置をイメージしていた。</p> <p>④ 三戸高校については、現在も探究学習に力を入れている。また、未来デザイン科は、地域と一体となって教育活動を実施していく特徴があることを踏まえると、三戸高校への設置は賛同できる。この未来デザイン科の設置を皮切りに八戸市内の中学生も進学するようになるのではないかと考えている。</p>

- ⑤ 八戸西高校のスポーツ科学科、八戸東高校の表現科はそれぞれ特色ある教育活動を実施しているため、維持するべき。
- ⑥ 後期実施計画期間の中学校卒業予定者数等の推移を踏まえると、前期実施計画期間における統合についても検討するべき。
- ⑦ 少子化が加速化することを踏まえると、将来を見据え、早い時期から統合等を進めていく必要がある。
- ⑧ 学級減で対応するとのことであるが、後期実施計画期間において統廃合は避けることができないため、後期実施計画策定前の早い段階から検討を進めていくべき。
- ⑨ 統合を行うのであれば、早めに統合に関する情報を周知するべき。
- ⑩ 前期実施計画期間である5年間は学級減で対応し、並行して中学校卒業予定者数が急減する後期実施計画期間に向けて、学校減や統合を議論するべき。
- ⑪ 後期実施計画においては、統合を実施したほうが充実した教育環境の整備ができ、魅力ある高校づくりを推進することができると思う。そのため、早い段階から統合を進めることを周知した上で、地域の理解を得る必要があると考える。
- ⑫ 学級減での対応については、多くの方が納得すると思う。
- ⑬ 2学級減については、学級数が多い高校や職業学科のうち2学級募集している高校の減が考えられる。
- ⑭ 学級減については、倍率等の中学生のニーズを考慮し、中学生の進路の選択肢を狭めないようにする必要がある。
- ⑮ 学級減で対応するのであれば、学級減を実施しても大きな影響がない高校を対象とするべき。一方で、統合することで学校数は減少するが、学級規模は大きくなり、高校教育の質を確保できるといった観点もあることから、統合という選択肢は残しておくべき。
- ⑯ 今後10年間を見据え、統合も含めてよりよい学校づくりをする必要があるという意見は建設的である。しかし、統合を実施するにはさらに議論が必要となってくるが、その間も中学校卒業予定者数の減少に対応する必要がある。
- そのため、前期実施計画期間は学級減を行い、前期実施計画期間中に統合についてしっかり議論することが、当地区ではよいのではないかと。
- ⑰ 学級減の対象については、これまで学級数の多い高校や学級減を実施しても大きな影響がない高校、同一の職業学科で2学級募集の学科という意見が出されていた。このことを踏まえると、1学科1学級の職業学科は維持し、学科の消滅は避けた方がよい。
- また、普通高校は倍率が高いため、中学生のニーズを踏まえると、普通高校から2学級減することは中学生への影響が大きい。
- さらに、規模の大きい高校は、八戸高校、八戸北高校、八戸東高校、八戸西高校があるが、八戸東高校、八戸北高校は、現行の第2期実施計画において学級減の対象となっており、さらに学級減を実施することは、学校運営に影響を与える可能性がある。
- 八戸高校については他の高校にはない人材育成の体制が構築されているため、率先して学級減の対象とするべきではない。
- これらを踏まえると、八戸西高校及び八戸商業高校の学級減で対応するというのが委員会での意見となると考える。
- ⑱ 学級減の実施時期等については、中学生の進路選択に影響を与えることから、早めに情報を提供する必要がある。

### 3 定時制課程・通信制課程の学校配置

地区	主な意見
東青	① 定時制課程・通信制課程を増やすべき。今後もこどもの多様化が進むため、拡充する準備をしたほうがよい。
西北	① 定時制課程の配置の維持及び通信制課程に通う生徒への通学負担の軽減についてはよいと考える。 ② 定時制課程及び通信制課程の配置を維持することについては賛成である。 ③ 定時制課程・通信制課程の学ぶ場はなくするべきではない。 ④ 定時制課程の高校は社会的に必要な教育機関であり、特に日本語教育を必要としている外国人等に対してもニーズが出てくると考える。
中南	① 生徒の通学の利便性を考慮すると、定時制課程・通信制課程の設置場所について検討する必要があるが、予算の面で新設は難しいため、現状の配置が妥当である。 ② 定時制課程・通信制課程について、中学生だけではなく、社会人もターゲットにした学科構成とすることで、学び直しにも対応できると考える。 ③ 定時制課程・通信制課程を一括で募集するとともに、様々な高校でスクーリングを実施し、生徒がスクーリングを実施する学校を選べるような制度を検討してはどうか。
上北	① 自宅により近い協力校でのスクーリングを受けられる体制を整備することについては賛同する。なお、スクーリング校としては、交通の利便性がよい野辺地高校への設置を検討すべき。 ② 私立高校の通信制課程が新置されている状況を踏まえると、県立高校の通信制課程を新設することは困難であると考えます。 ③ 教員の確保・配置等は、常に検討する必要がある。
下北	① 現状、定時制課程・通信制課程はセーフティーネットではなく、子どもたちの選択肢の一つとなっており、生徒数が増えていることからきめ細かな対応が難しいという状況にある。教員加配等の配慮により、これまでと同様の指導ができる環境をお願いしたい。 ② 例えば、田名部高校の定時制課程を大湊高校に移転し、通信制課程のスクーリングを併せて行うことも一つの方策だと思う。 ③ 夜間に公共交通機関がないことから定時制課程への進学を諦めている中学生がいると聞いているため、昼間定時制課程の設置もお願いしたい。 ④ 昼間・夜間が選択できる定時制については、自己完結性が高い下北地区だからこそ地域に必要だと委員から強い要望があったことを踏まえて検討した結果、示された方向性であるということを受け止めている。
三八	① 通信制課程のニーズは年々高まっているが、その需要は私立高校の通信制課程等で満たされていると考える。しかし、経済的理由等により、県立の通信制課程の高校を希望する中学生も一定数いることを踏まえると、各地区に1校ずつ、交通の便がよい場所の県立高校に通信制課程を設置することも考えられる。 ② 通信制課程へ進学する生徒が多くなっている状況を踏まえると、現在の配置を維持しながらこれまで以上に一人一人に寄り添う指導が重要であると考えます。

#### 4 その他

地区	主な意見
東青	意見なし
西北	<p>① こどもたちは減っても教育の質を下げないという方向を今から考えていく必要がある。</p> <p>② 自分が学びたいことを学べる高校が地区に配置されなければ、人口減少は止められない。</p> <p>③ 高校が地区コミュニティの中核となっている自治体が多いことから、慎重な検討が必要であり、削減することだけではなく、発展的な形となる方法を見つけていく必要がある。</p> <p>④ 県教育委員会として、小学校から高校までの一貫した教育を実施していく方向性を示す必要がある。</p> <p>⑤ 中学校卒業予定者数が減少していく中、目指す未来像が、当地区では見えてこないことから、段階的な目標設定をした方がよい。</p> <p>⑥ 今議論している内容は、現在の未就学児にも関係することから、その保護者等にも意見を聞くべき。</p> <p>⑦ 県立高校においても、留学制度やグローバル教育の充実などの特徴を出していく必要がある。</p> <p>⑧ この地域の20年後を見たときに、人口やこどもの数が減り、公共交通も維持できなくなる。教育を行うための高等学校という施設を、人口減少地域に設置し、こどもたちが集まってくる仕組みを考えるべき。このままいくと、市部に高校は残るが、郡部には高校が残らない。どこにどういった高校を配置していけば、地域の移動のバランスなどがうまくいくのかも考えて欲しい。</p> <p>⑨ 公立・国立の大学を設置し、高校生が県外に進学しなくても、この地域で高等教育を受けられるとよい。グローバル化等の社会の変化を考えたときに、高等教育を受けられる学校を本地域に設置することで、全国からも高校生が進学してくると考える。</p>
中南	<p>① 私立高校の授業料無償化の影響もあり、今年は黒石市から25名程度の中学生が東奥義塾高校に進学した。中学校卒業者数の減少に合わせて学級減を行うことは仕方ないと考えるが、今後は学級減だけでは済まないのではないかと。</p> <p>② 中南地区の県立高校は地区間の流出入の影響により入試倍率が高い傾向にある。また、私立高校の授業料無償化の影響により、県立高校全体の入試倍率の更なる低下が見込まれている。このような中、令和9・10年度の入試倍率の状況を確認する前に中南地区の削減学級数を決めるのは時期尚早ではないかと。</p> <p>③ 黒石高校の生徒や保護者の満足度は高く、高校も地域との連携を頑張っているが、そのことが中学生や地域住民に伝わっていない。県には、黒石市をはじめとする近隣市町村との連携を強化してほしい。単に学級減するだけでは地域の衰退につながりかねない。</p> <p>④ 生徒の通学環境を整備するためには、自治体等との連携が必要である。</p> <p>⑤ 前期実施計画を策定するに当たっては、これまでの進め方を踏襲するのではなく、一度立ち止まってランドデザインを作る必要があるのではないかと。令和8・9年度にしっかりと検討した上で、令和10年度から実施すればよいのではないかと。</p> <p>⑥ 小・中学校と同様に公立高校内においても特別支援学級の設置を推進することも考えられる。また、県立特別支援学校高等部に情緒障がい学級を設置することも考えられる。これらにより、定員割れをある程度は抑えることができると考える。</p>
上北	<p>① 教員等に対してアンケート調査を実施し、意見の集約を行えば、学校規模・配置も考えられるが、今の状況であれば検討できない。</p> <p>② 公共交通機関の状況や経済的な理由で高校の選択肢が狭まらないようにしてほしい。</p> <p>③ 高校の閉校は、地域だけでなく、本県全体の魅力の低下につながる。</p> <p>④ 百石高校が学級減となっても、おいらせ町の中学生は、七戸・野辺地方面へは進学しない。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤ 百石高校食物調理科を全国募集の候補の対象としてほしい。</li> <li>⑥ 高校通学無償化又は補助を実施する必要がある。</li> <li>⑦ 中学校卒業者数の急減期の到来が予測されている令和15年度以降の状況をみて、学科再編等についてさらに考えていく必要がある。</li> </ul>
下北	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 令和9年度に募集停止する大湊高校について、計画的な人事配置や兼務発令によって、教育活動の充実を担保してほしい。そして、閉校後も田名部高校と統合校において同様の対応を維持し、地域の教育環境の充実に努めるべきである。第1回会議で市長が述べた「1校2キャンパス制」のような本地区高等学校教育の最終的な「あるべき姿」をイメージする必要がある。</li> <li>② 下北地区統合校の早めの情報提供に加え、リーフレット等で周知も図ってほしい。</li> <li>③ 下北地区統合校について、開設準備室で決まったことは早めに公表してほしい。方針でも構わないので、逐一こどもたちに情報提供をお願いしたい。</li> <li>④ 中学校では教員の未配置がある中、ギリギリで教育活動を行っており、学力水準の確保や学力向上という声に対応するのは本当に厳しい。</li> <li>⑤ 高校教育改革について、生徒、保護者、地域住民に伝わるように丁寧に説明をお願いしたい。</li> <li>⑥ 後期実施計画期間において地域総合学科制を構築する必要がある、その場合には1校2キャンパス制（もしくは2校による高度連携）とし、大学科編成は普通科と専門学科とする。また、専門学科内の小学科については拡充を図るとともに更なる少人数化・くくり募集を実施する。さらに、普通科については学際領域科（1学級）を新設するべき。</li> <li>⑦ 国の高校教育改革の方針のそれぞれの視点に対応して本地区では、①学びの在り方の転換として、柔軟な教育課程を編成する地域総合学科の設置、②最先端を学ぶ高校の特色化・魅力化として、特色ある普通科及び特色ある専門学科の設置、③学ぶ機会・アクセスの確保として、全ての教育資源の開放によりユビキタスな環境を構築するべきと考える。</li> <li>⑧ これまでの委員の意見が反映されていない。本委員会を意味のある場としてほしい。意見が反映されないのであれば、今後出席はしない。要望行動に移すことになる。</li> </ul>
三八	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 多様な学びを提供するためには、教員確保は非常に重要である。</li> <li>② 高校生は、大学進学後、地元ではなく都会で就職する。将来を見据え、高校で生徒と地域との関係性を密にしたり、地元に戻ってくるような学びを提供する必要がある。</li> <li>③ TEAM 県立を打ち出しているのであれば、県においても生徒の通学環境の整備のために、各校までのバスの運行等を考えていく必要がある。</li> <li>④ 国が掲げる「グランドデザイン」にある2040年に向け、学校規模・配置を適正に進めるとともに、大学との連携や高校の特色化・魅力化を進めることも重要となる。さらに、地域の担い手となる人財を確保するためには、専門高校の役割が特に大きくなっていくのは明らかであることから、すべての関係機関が丁寧に連携していく必要がある。</li> </ul>